

## 令和7年度栃木県地質調査業協会研修視察報告書

研修場所・日時	①蔵王ジオパークセンター：令和7年6月27日(金曜日)10:45～11:45 宮城県刈田郡蔵王町遠刈田温泉字遠刈田北山18-2 ②仙台地底の森ミュージアム：令和7年6月28日(土曜日) 9:20～10:20 宮城県仙台市太白区長町南 4-3-1
研修の背景と目的	栃木県支部協会ではジオパークなどを中心とした視察研修を事業計画に取り入れている。対象者は社員及び所属企業職員を対象とし、地質遺産から地球の仕組みや過去、大地の成り立ちを学び、それらが地球上の動植物や私たち人間とどのようにつながっているかを知ることを目的とした。
研修者数・実施規模	19名 中規模
研修・視察 所感	<p>1. ジオパーク (Geopark) は、地球や大地を意味するGeoと公園を意味するParkを組み合わせてできた造語。2025年1月27日に開催された第53回日本ジオパーク委員会にて、日本ジオパークに認定され、蔵王ジオパークの誕生により、日本ジオパークは全部で48地域（うち10地域が世界ジオパーク）となった。蔵王ジオパークには、活火山である蔵王山をはじめ、短期間で活動を休止したとされる青麻山、巨大噴火の名残をとどめる円田盆地の3つの火山がある。これらの存在は、たとえば水や土壤の性質に作用し、周辺の生態系や山麓の人々の暮らしに大きな影響を与えてきた。地域内には、保全対象(サイト)が点在し、蔵王ジオパークでは、これらのサイトをまとめ、5つのエリアが設定されていることが説明された。また、ジオパークのメリットとデメリットに関する説明があり、認定に関しては特に、世界遺産と同じ枠組であり、1度認定されただけではジオパークを名乗り続けることができない。活動評価は、4年に1度の再審査がある。関連分野として地球科学・自然科学の専門職員が必要なため任期付雇用が常態化しているとのこと。</p> <p>2. 仙台地底の森ミュージアムは、仙台市が富沢小学校建設のため、事前調査していたところ弥生時代をさらにさかのぼり、約5m下に約2万年前、旧石器時代の地層で当時の森林形態と縄文人の狩猟の痕跡が見つかったものである。仙台市では、それを後世に遺していくべき貴重な遺跡としてミュージアムを建て保存に力を入れるとともに一般に公開している。仙台市の中心部に近いこの土地をミュージアムとして活用してくれた仙台市には敬意を表したい。</p> <p>ジオパークは、地球資源を持続的に利用したり、気候変動の影響を緩和したり、自然災害の影響を軽減するといった、社会が直面している重要課題への意識と理解を高めるため、その地域のあらゆる自然・文化遺産と関連した地質遺産を活用することが必要であることを再認識した。</p> <p>大地をよく観察し、地球の活動のしくみを知ることにより、人と地球が共生し続けられる「持続可能な社会」を目指すヒントとなり今後の活動につなげて行きたい。</p> <p>また、地域の「たからもの」を次世代にのこし、今の子供たちが大人になっても今と同じように、地域と故郷を楽しめることを望みます。</p> <p>寄稿：株式会社フジタ地質 中村 享史</p>